

## 乗る人全員に爽快感と快適さを

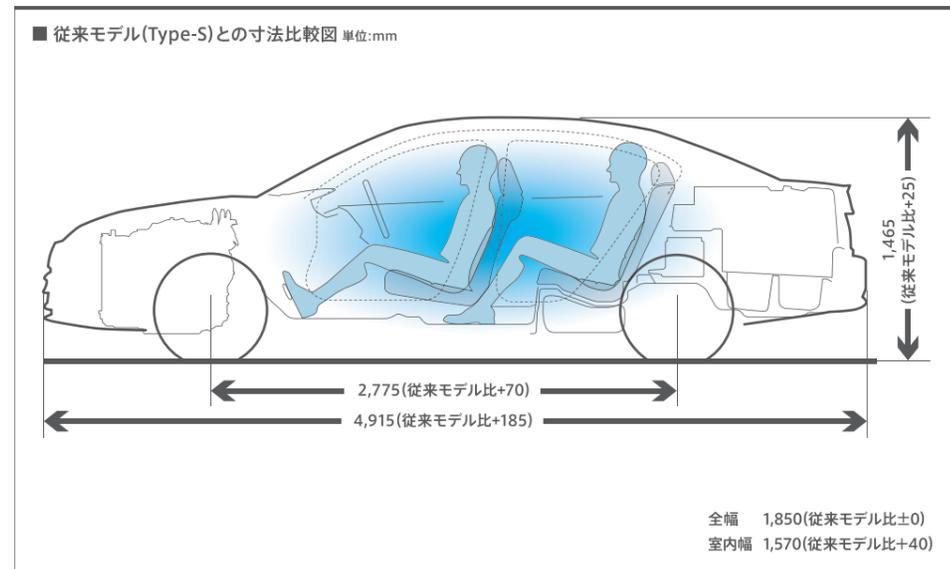
インテリアにおいては、爽快感あふれる造形と見晴らしの良い視界を追求しました。従来モデルを大きく上回るゆとりの室内空間にさらなる広がり感を持たせるとともに、各部に上級セダンにふさわしい質感を追求。さらに、より操作しやすい先進のインターフェイスを取り入れ、心地よく快適な室内空間をつくりあげました。

### パッケージング

タンデムディスタンスを90mm延長し、リアシートの快適な居住性を実現。また、従来モデルと同一の全幅ながら、「パレルシェイプ」のボディを採用したことにより、室内幅を拡大するとともに、寸法以上の「広さ感」を得られるようにしました。さら

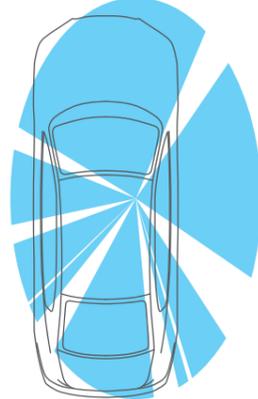
に、フロントガラスのラウンド化、死角の縮小などによりドライバーの視界もより爽快感あるものとするのはもちろん、運転のしやすさにも寄与しています。

※数値は従来モデル (Type-S) 比。Honda測定値。



### 広い視野角

フロントビラー位置や形状の最適化をはじめ、視界の広さを追求。爽快感と運転のしやすさを高めました。



### インストルメントパネル

インストルメントパネルまわりは、両端を前方に押し出して広がりを持たせて爽快感を演出するとともに、ドアライニングの表皮部分を上部にまで回り込ませたスタイリングにすることによって、肩周りの解放感を表現。その上で、走行テストも重ねながら各部のボリュームを細かく整え、包み込まれるような安心感の両立を狙いました。



Photo: LX

### マテリアル

室内全体を「革」「木」「布」など、モチーフとした素材の特徴を活かした造形とすることで、さらなる上質さを追求しました。

また、乗員の身体に触れるドアライニングなどにはソフトパッドを多用し、安心感を演出しています。



### 木目調パネル

彩度を抑え、先進的なイメージを演出する木目としました。また、曲線的なインパネアッパー部分と対比させた、がっしりとした造形とし、助手席周りの視界にアクセントを持たせています。



### メッキ加飾

機能部品には、細く効果的に、クロームメッキを施すことで認知性を向上させながらシャープな表情を演出。面積の大きなパネルなどは、サテン仕上げとすることで、光の反射を抑えつつ、質感を高めました。



### 新製法の革シボ

革本来の自然な風合いと立体感を表現する新製法を採用。彫りを深くすることで革の持つふっくらとした表情を再現。レザーシートの質感とも統一感を持たせた、こだわりのシボとしました。

### シート

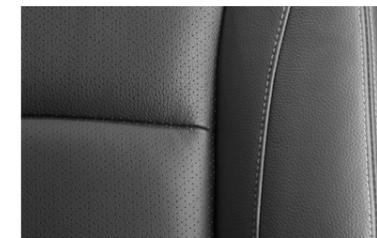
シートは、ホールド感を高めるのはもちろんのこと、座面やヘッドレストに体が触れた瞬間の「柔らかさ」にこだわりました。加えて、身体全体をしっかりと包み込むようにラウンドさせた

シートバック形状を採用。リラックスした座り心地とともに、長時間のドライブでも姿勢をしっかりと保持できる、上級セダンに相応しいシートに仕上げました。



### 再生PET&バイオファブリック

ファブリックシートのサイド部には柔らかい触感の再生PETを、メイン部にはサラッとした手触りのサトウキビ由来バイオファブリックを採用しました。従来の化学繊維と比較して、ライフサイクルでのCO<sub>2</sub>排出量を削減できるだけでなく、独特のしなやかさやスムーズさも備えます。



### グラデーションパンチング加工

メーカーオプションのレザーシート表皮には、シート前方と上方に向かってパンチングの間隔が広がっていく、特徴的なパターンを与えました。視線を自然に広い方へ導くことで解放感を演出します。



### 前後調節機構付ヘッドレスト

ヘッドレストの位置を細かく調節可能な、前後調整機構付ヘッドレストを採用しました。体格や好みに合わせ、より最適なドライビングポジションを取れるようにすることで、快適なドライビングをサポートします。